

令和3年度 第5回 若葉区区民対話会概要

「自主防災組織交流会(御成台・千城台地区)」

1 区長挨拶

2 各自主防災組織の活動内容等の説明

3 意見交換

※以下、御成台一丁目自主防災会＝御成台一丁目、
御成台二丁目自主防災会＝御成台二丁目、
御成台三丁目自主防災会＝御成台三丁目、
千城台東町自治会自主防災隊＝千城台東町 と略記。

(1)各団体の活動状況について

① 各団体から千城台東町への質問と回答

・防災隊員の募集方法は。

⇒隊員が高齢化しており、若い人は自治会活動から遠ざかる傾向にあるが、「やってもいいよ」という方が少しずついるので、なんとか知恵をしぼりながら募集している。

・防災ニュース(広報紙)発行にあたり工夫していることは。

⇒各所から情報を仕入れるなど、工夫して記事を掲載している。

・会議の開催頻度は。

⇒年1回の総会(隊員73名)の他、各班(5班)で班長、副班長の防災会議を適宜開催している。

・活動を継続していく苦労は。

⇒避難行動要支援者名簿の更新は手間がかかり、個人情報保護とのバランスが難しい。

⇒(市から)手間はかかるが、やっているようでやっていない団体が多い重要な活動だと感じる。他に見守りカードについては、千城台東町の活動の様子を収録したDVDを地域振興課で貸し出している。実際に映像で見ただくと伝わりやすい。

② 各団体から御成台三丁目への質問と回答

- ・ウェブ会議サービス(ZOOM)による会議開催はスムーズに行えたか。
⇒最初は慣れていない人でも、ITに詳しいメンバーの指導もあり対応できている。
- ・地域での「自助」の意識の共有をどのように行っているか。
⇒防災だよりを年3～4回発行し、発生した災害や訓練の報告など、メンバーで気づいたことをまとめて、各家庭に共有している。
- ・防犯パトロールののぼり旗の設置はどのように実施しているか。
⇒班長と役員の家で1週間ごとに立て、巡回している。

(2)各団体における課題について

① 千城台東町

近隣の避難所だけでは不足感があったため、市に自治会館を避難所に認定してもらった。千城台東小の避難所運営委員会は、ここ何年か開催されていなかったが、自主防災隊の活動が結構大変で、避難所準備まで中々手が回らない状態だが、学校の避難所を機能させるために、避難所運営委員会との連携が課題であると感じている。

② 御成台三丁目

千城台東小は地理的に遠く、実際災害時に行くのは難しいと考えている。避難所に行かないで済むよう、火事を出さない、もし出たら延焼を防ぐ、自分で備えられるものは各家庭で備えるといった対策が重要である。東京情報大と意見交換を行っており、今後、協力関係を築いていきたいと考えている。

コロナの影響で集合の訓練が難しかったことから、在宅訓練を実施した。その中で、できていなかった比率の高い項目(通電火災防止装置や非常用トイレなど)をピックアップし、防災だよりで情報提供した。

(3)本日の感想について(参加者から)

- ・せっかく模擬避難所ができたので、実際に多くの方に道具を使ってもらいたい。普段の活動に活かせるようなアイデアも広がる。積極的に宣伝していただきたい。
- ・自分は民生委員だが、千城台東町の活動の話を聞き、高齢の方や要介護の方にもっと積極的に声をかけようと思った。

(4)防災全般に関する意見・要望などについて

- ・近隣に防火水槽が数カ所あるが、防火水槽の容量が小さいためポンプが設置されていない。合算すると相当量の容量となるので、是非ポンプを用意してもらいたい。
- ・支援が必要な家庭への自治会としての対応について示したものがほしい。
⇒防災対策課で、要支援者への対応について個別避難計画を作成するためのモデル事業を行っているところなので、このような地域の声を届けていきたい。
- ・コロナ対策として、避難所の居住スペースを体育館だけではなく教室も開放するという市の指針が示されたが、コロナが落ち着いたらどうなるのか、元に戻るのか。
⇒市内で現在検討しているため、もうしばらくお待ちいただきたい。
- ・防災訓練で、災害時の持ち出し袋を持ち寄り、中身を皆で確認し合った。準備していても使えない物などがあることが確認でき、有意義であった。
⇒非常食や簡易トイレも便利なものがたくさんある。自助も大切なので、備えられるものは積極的に取り入れていただきたい。

以上